

以下の留意事項をよくお読みになった上で、【課題1】の計画作成にあたりニーズ整理した内容を、ご記載ください。

個人情報については、特定されないよう固有名詞を「〇〇」等に修正してご記入してください。

『ニーズ整理票』を作成するときの留意事項

1. 本人の希望とアセスメントの欄から書き始め、情報の欄には、アセスメントの根拠になったことだけを書いてください。(1)本人の希望、(2)生物ー心理ー社会的なアセスメント、(3)その根拠になった情報やエピソード、(4)支援課題の順番がよいと思います。支援課題や支援プランから書き始め、その根拠を固めてゆく、という手順もあり得ます。重要なのは、情報・エピソード⇔評価・アセスメント⇔支援課題⇔支援プランのつながり(整合性)です。アセスメント、支援課題、支援プランに関係のない情報・エピソードは記載しないでください。
2. ケースの概要(本人の年齢、性別など)は、「今回、大づかみに捉えた本人像」にを記入してください(アセスメントの根拠にはならない情報を「情報の整理」に書かない)。
3. 情報とアセスメント(評価)の違いを明確に意識してください。たとえば、「誰々が何をした」「IQは73」などは情報、その言動やデータを(私が)どのように理解・解釈したのかがアセスメント(評価)です。情報は3人称、アセスメント(評価)は1人称です。
4. アセスメント・評価には、確信度や自信に応じて段階があります。理解、解釈、推測、仮説などです。「〇〇の情報から、とりあえず2つの仮説を立てた」というのも有りです。
5. 生じている問題のアセスメントは、そのメカニズムを明らかにすることです。つまり、「どのようなことが起きているのか」ではなく、「そのようなことが、なぜ起きているのか」です。
6. 「なぜ」がまだわかっていないときは、それを明らかにするための課題やプランもあり得ます。推測や仮説レベルのアセスメントは、さらに確認する必要があるでしょう。
7. 生物的なアセスメントに病名・診断名だけを書かないようにしてください。(アルツハイマー型認知症ではなく)「健忘が目立ち、金銭や財産の管理が難しい」、(統合失調症ではなく)「内服を中断すると再発しやすい」、(中度知的障害ではなく)「薬物療法は必要だが、眠気が強いと不機嫌になってしまう」といったアセスメントであれば、支援方針に結び付きます。
8. 具体的な記載と抽象度の高い記載を意識してください。情報・エピソードは具体的に、アセスメントと支援課題は抽象度が上がり、支援プランはできるだけ具体的に記載しましょう。
9. 強みと伸び代に目を向けましょう。個人の性格、能力、資質、意欲、向上心、環境の強み、これまでの支援経過で伸びてきたことなどです。
10. 複数の支援対象者がいる場合は、研修資料⑦を併せて使うとよいかもしれません。
11. 個人が特定できるような情報は載せないなど、守秘性に配慮しましょう。

インタビュー	アセスメント	理解・解釈・仮説② (事柄的アセスメントや他者の解 釈・批判)	支援課題 (支援が必要と作業者が思うこ と)	プランニング 対応・方針 (作業者がやろうとすること)
<p>本人の表明している 希望・解決したい課題</p> <p>本人は登校したいとも 思っているが、クラスに いるのはつらい 父の叱責が怖い</p> <p>父は、本人にしっかりと してほしいと思っている 母は、父の厳し過ぎる 叱責を心配している</p> <p>(作成者の)おさえておきたい情報</p> <p>小学生低学年から全般的な学業不振 遊びや遊びが嫌い 下級生と遊ぶことが多かった</p> <p>よく「どうせぼくなんか」と言う 授業がわからないと泣くことがあるが、 支援学校の活用を勧めると泣く</p> <p>友だちに強がって見せるので、 からかわれやすい 遊びに誘われなくなり、 休み時間は独りで過ごしている 声をかけてみると、友だち関係や家族の ことをいっている</p> <p>父は特別支援学校の利用を勧めた小6担任に 激怒し、帰宅後、本児を殴った 母は「お父さんが無理を言うのが心配」と 話している</p> <p>担任は「受け」「できることもやろうと しない」と強調するが、指導については SCや専門機関に相談したいと言っている からかい、ちよっかいを出す男児が数人 からかいを止めようとする女児も数人</p>	<p>理解・解釈・仮説 (作成者のとらえたかた、解釈・推測)</p> <p>【生物学的なこと】 生来的な知的発達の違いがありそう</p> <p>【心理的なこと】 周囲についていけないことで傷つくことが多く、 自信をなくしていると思われる 学校生活が楽しくなっていないが、特別扱いされた くないらしい(父の意向を気にしているのかも しれない)</p> <p>【社会性・対人関係の特徴】 平均的な同年代集団の中で楽しさを共有できる 機会が減ってきている 困っていることを相談できる相手がほしらしい</p> <p>父は本人の知的発達の違いを否認する傾向が 強いものと思われ、しつけや指導は感情的・ 暴力的になりやすい 母親がキーパーソン</p> <p>担任は、知的発達の違いという視点をもって いないが、助言は受け入れてくれそう</p> <p>クラスメイトのからかいやちよっかいは登校を 流る一因になっていると思われるが、味方もいる らしい</p>	<p>子ども家庭支援センターは 虐待リスクの高いケースと 捉えており、要対協の対象</p>	<p>①養育状況と虐待リスクを 把握する</p> <p>②本児への心理的サポート ③味方になってくれる友だ ちを増やし、からかいを 減らす</p> <p>④本児の発達上の問題を 両親と共有し、知的能力 の活用と特別支援教育 の活用へ</p>	<p>①子ども家庭支援センター 母親との定期面接</p> <p>②SCによる隔週30分の面接 友だちや家族との関係を めぐる心境を聴き、助言 をもらう</p> <p>③担任に依頼し、味方派、 からかい派のメンバーと 話し合いの機会をもち もらう</p> <p>④まずは母親、できれば 父親を含めた面接を設定 (父親に対して知的発達 の話題は要注意)</p>
<p>今回大哥がみに捉えた本人像(100文字程度で要約する)</p>				
<p>スクリーンショットとして関わっている中学1年生、男児。程度の知的発達の違いに気づかれず、就学環境が整っていないことが中心の問題。もともとの本児は天真爛漫タイプであったが、中学進学後、学校生活への適応に苦しんでおり、登校拒否が生じている。父親の問題否認と虐待リスクが高いことに要注意。母親の問題認識が適確であること、本児の援助希求性が強い。</p>				

*令和6年度相談支援従事者指導者養成研修 配布資料より抜粋